白山台中

主体的に思考・判断・表現する生徒の育成

～積極的に話し合う授業づくりの研究を通して～

（２年計画の１年次）

校長　小笠原　徹

１　研究主題について

本校の教育目標である「夢と友情をはぐくむ生徒」の育成を図るために、平成３０年度から３年計画で、研究主題を「グローバルな社会を生きるための『学ぶ力』の育成」として取り組んできた。その結果、「いつ・どの場面で・どのように」を明確にしてＣＴ機器を活用した授業が多く見られ、誰もが安心して学びに参加するようになり「学ぶ力」が育ってきた。一方で、ＩＣＴ機器を活用した学習活動が、指導者側からの一方向になりがちであり、生徒との双方向でのやりとりまでは到達できなかった。また、「自律貢献」の観点から生徒が相互に関わり合う力（コミュニケーション力）や表現力・発信力、ねばり強くやり遂げる力について課題を残した。

そこで、今年度から新たに研究主題を「主体的に思考・判断・表現する生徒の育成」と設定した。本研究を進めることで確かな学力の向上を図りたい。特に、今年度から全面実施される学習指導要領は基礎的・基本的な知識・技能の習得、習得した知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成、学習意欲の高揚を目指している。以上のことから、「主体的に思考する力」「他との交流を通して思考を深める力」「自ら言葉で伝え合う力」の育成を目指し、指導力の向上に焦点を当て、研究に取り組んでいく。そのために副題を「積極的に話し合う授業づくりの研究を通して」とした。

２　研究のねらい

今年度は、「一人一人が主体的に思考し、思考を深める授業づくり」をねらいとし、主体的・対話的で深い学びの実現を図りながら、授業の充実を目指す。その根底には、「確かな学力の育成」があり、「基礎的・基本的な知識・技能の定着」と「思考力・判断力・表現力の育成」を相互に関連させ、生徒の意欲を高めるような導入段階の工夫、課題提示・発問の工夫、話合い活動の設定の工夫など、授業の改善を継続していく。

３　研究仮説

各教科・領域の授業において、学習課題に対して見通しを立て、考察し、意見交流をする中で考えが深まり、基礎的・基本的な知識・技能を習得させることができる。また、教師の「語り」や課題の投げかけ方の工夫によって、生徒の関心・意欲、思考力・判断力・表現力等を高めることができる。

さらに、一人一人が主体的に思考し、その意見を共有したり整理したりする中で課題解決の方向性を導き出したり、新たな課題を発見したりすることができ、学びを深め、学びの楽しさを広げることができる。

４　研究内容

⑴　学習課題への見通しをもつための課題設定とねらいに即した授業の振り返りの工夫（各教科・領域における指導と評価の一体化）

⑵　特別支援の視点を踏まえたユニバーサルデザインに基づく授業づくり

⑶　思考・活動・表現の連動を意識した授業展開（単語を組み立て、言語・表現活動をする）

⑷　誰もが安心して参加することができる学び合いの充実（学びを深める場面の設定）

⑸　ＩＣＴを活用した思考力、発信力、自己表現力の育成

５　研究の経過

⑴　研究仮説に基づく授業研究

月	日	授業研究（内容）
１０	１ ７ ２６	・校内研究授業 ３学年・学級活動（キャリア教育）　３年２組　授業者：井上恵美 助言者　教育指導課主任指導主事　梅村光江　先生 ２学年・学級活動（特別活動）　２学年全員　授業者：藤田友紀 助言者　小中野中学校教頭　森外勇一　先生 １学年・学級活動（特別活動）　１年３組　授業者：菰田聖一 助言者　市総合教育センター主任指導主事　中村美穂　先生 ※共同研究者：宮崎充治（弘前大学教育学部　教授）
１１	１６ １６ ２５	・初任研授業研究　授業者：出河優（２年４組　社会） ・中堅研前期授業研究　授業者：・西史奈（１年４組　国語） ・中堅研前期授業研究　授業者：百目木美佐紀（１年４組　英語）
１２	３ １４	・中堅研後期授業研究　授業者：藤田友紀（２年５組　理科） ・中堅研後期授業研究　授業者：山田五月（３年１・２組　保健体育）
１	２５	・初任研授業研究　授業者：出河優（２年４組　道徳）

⑵　一般研修

月	日	一般研修（内容）
４	２ ２８	学年・学級経営に関する研修　講師：柳谷貴広　教頭 校内研修計画についての共通理解　　新学習指導要領における評価について クロムブック活用のルールについて
５	中旬	特別活動に関する研修と年間指導計画について 講師：特活部長　柏崎悠生　教諭
６	１０	「指導と評価の一体化」について 講師：教育指導課　副参事　日向端　聖　先生
７		校内研究授業（特活・キャリア）に向けた指導案検討会（領域部会・学年）
８	４ １７ ２４ 下旬	令和３年度中学校教育課程研究集会（教科部会） 令和３年度中学校教育課程研究集会（領域部会） 校内研究授業（特活・キャリア）に向けた指導案検討会（領域部会・学年） 中堅研（前期・後期）に向けた指導案検討会（教科部会）
１１	中旬	中堅研（前期・後期）、初任研研究授業に向けた指導案検討会（教科部会）
３	上旬	次年度の校内研修について

６　研究の成果

新学習指導要領の完全実施を受けて、「指導と評価の一体化」を踏まえた授業改善について教師間の共通理解を図るため、八戸市教育委員会日向端聖副参事を講師に招いて校内研修を実施した。

研究仮説について、１学年・２学年特別活動・３学年キャリア教育の校内研究授業を、主な検証の場として研究を進めた。「主体的な思考・判断・表現につながる発問・活動指示・教材提示・問題提示の工夫」「課題を見出すための話合い活動や共有した課題の解決を図るための話合い活動の工夫」「指導と評価の一体化の工夫」に重点を置いて研究し、生徒の主体的な学習活動を促す指導について充実を図った。

ユニバーサルデザインを踏まえた授業作りの一つとして、板書の際に「学習課題」「今日の予定」「まとめ」の表示をすること、それらの表記の色を学区内の小学校と統一することを、全ての教科における共通実践事項とし、配慮が必要な生徒に対する小・中一貫した対応の実践を図った。

７　研究の課題

生徒自身に課題を見つけさせる工夫、学習用端末の活用のしかた、指導と評価の一体化等に関する、有効な手法について一層の共通理解を図り、教員間で共有できる体制を整える必要がある。

また、「積極的に話し合う授業」の土台を確かなものにするため、相手を尊重して話し合う態度、根拠を明確にした意見の述べ方等について全教科、全領域において共通した指導を行っていくことが課題である。次年度、学区内の小学校とも連携し、継続的な指導によって、生徒へのしっかりとした定着を図る予定である。

これらの課題解決に向けて職員一丸となって取り組むことを可能にする研修を提案していきたい。

（記入者：四戸壮一郎）